平成 23 年度　事務事業事後評価調書　(平成　22　年度事業)

整理番号	3	―	12

1　事務事業の表示

※ ■ ：　該当

事務事業名	寡婦住宅物置設置事業					
評価者	担当課名		税財管理課	担当係名		管財係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	久保田　和　孝		氏名	武藤知憲
事業の概要	寡婦住宅において、良好な住環境の整備を図るため、景観上等を配意した屋外物置を設置する。					

全体計画 /単年度のみ (平成　年度～　年度)	
事業費 国・道支出金	千円
地方債	千円
その他	千円
一般財源	千円
事業費計	千円

実施方法	■ 直営	民間委託	その他 (　)

第 5 期 総合計画 (前期)		■ 非登載事業	優先度	A

事業の位置付け		
政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～
基本施策	18	住環境の整備
単位施策	2	良好な住生活の確保
事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務
その他計画・根拠等		

事業費 実施年度	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	3,234 千円	千円	千円
合計	千円	千円	3,234 千円	千円	千円

2　事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が (対象)】	寡婦住宅入居者
【抱える課題やニーズは】	屋外物置の設置
【どのような状態になることを目指したのか (意図)】	景観上好ましいものとするためにも共同物置として設置する
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	スペース等、平等に入居者全員に物置が配分された

望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)

寡婦住宅物置設置

指標 (指標計算式／解説)	目標値及び実績値	
① 寡婦住宅物置設置工事	目標年度	平成22年度
	目標値	1 式
	実績値	1 式
	達成度	100.0 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容 (どのような手段で何を行ったか)	
寡婦住宅物置設置工事	木造平屋　1棟4戸の物置の設置 (延床面積　29．16㎡、戸当り専用面積　4．86㎡)

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	寡婦支援のために住環境を整備しているため、住宅に付随する物置の設置は必要である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	景観における調和及び入居者の住環境整備が図られた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	4戸分を1棟として設置したため、事業費の抑制が図られた。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	寡婦住宅入居者が対象であり公平である。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
住宅と調和した、木素材のため、自然や人にも優しく、安全で良好な住環境を整備することができた。		

今後の展開方向
（Action）

終了		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）